

救 急 概 況

1 救急出場件数等の概況

平成21年中の救急自動車による救急出場件数及び救急搬送人員は、4,774件、4,479人であり、平成20年中と比較した結果、件数は60件、搬送人員は63人それぞれ増加し、昨年までの減少傾向から再び増加傾向に転じた。

救急自動車による出場件数は、一日平均約13件で、約2時間に1件の割合で救急出場し、市民の約34人（前年約32人）に1人が救急自動車により搬送されたこととなる。

また、覚知から現場到着までの所要時間の平均は7.4分（全国平均7.7分）、医療機関収容までの所要時間の平均は29.4分（全国平均35.0分）となり、全国平均よりも短時間での現場到着及び医療機関収容となっている。

今後も高齢化が進展するとともに、社会環境の変化に伴い救急需要は増加することが予想され、真に緊急を要する傷病者への対応が遅れるため、救命率の低下が懸念される。これらの対策として、救急車の空白区域（時間）を補完するために、消防隊に救急資器材を積載し、救急隊が早急に対処できない事案（救急重複時等）に出場させており、消防隊による救急出動件数が184件と、前年に比べ59件増加している。

ヘリコプター使用による搬送件数及び搬送人員は、10件、10人であり、平成20年中と比較した結果、件数は1件、搬送人員は1人と共に増加している。

（内訳～高度救命センタードクターヘリ7件、民間医療用ヘリ3件）

2 救急搬送人員の詳細

平成21年中の救急搬送人員を傷病程度別割合で見ると「軽症」が38.3%を占めている。事故種別構成比で最も大きかったのは、全体の61.1%を占める「急病」であり、年々増加傾向にある。

また、年齢区分別割合で見ると「高齢者（65歳以上）」が、全搬送人員の53.8%を占めており、「成人（18歳以上65歳未満）」の35.3%を大きく上回っている。

3 市民による応急手当の状況

救命率の向上には、市民による応急手当実施率の向上、救急隊による迅速な搬送と応急処置、医療機関による適切な治療（救命のリレー）の地域総合力がいかに高いかが重要となる。

宗像地区消防本部では救命率の向上を図るため、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当の普及啓発活動を推進し、平成6年から普及啓発に取り組み、現在までに延べ46,700人以上の受講者数に達している。

平成21年中に応急手当が実施された傷病者数は、救急隊が搬送した心肺停止傷病者数の57%にあたる63人となっている。（平成21年中の心肺停止傷病者110人）
